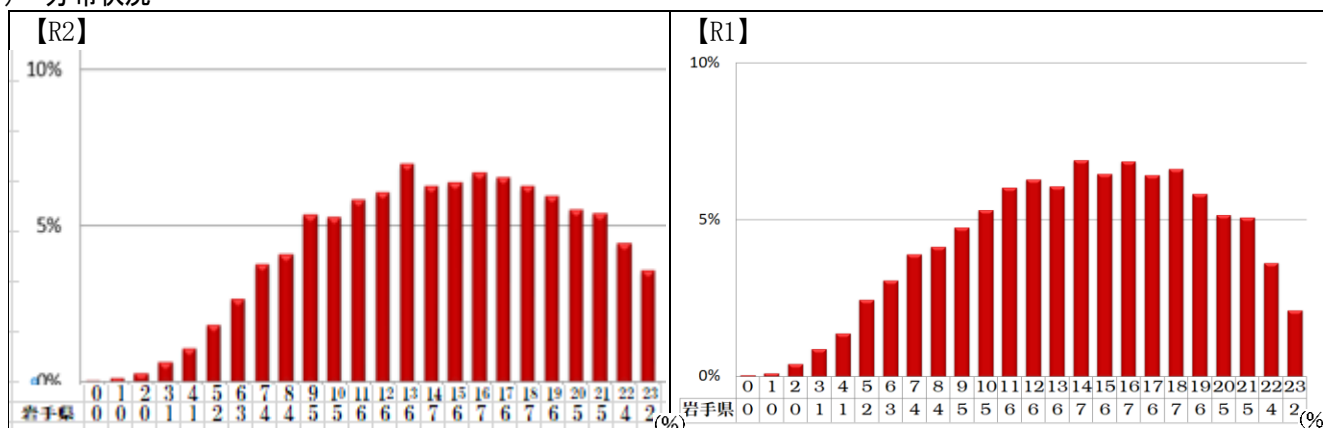


# 授業改善の手引 中学校第1学年英語

## 1 調査結果

### (1) 分布状況



○ 問題数は昨年度同様23問。正答数の最頻値、中央値とも13問、平均正答率は62%です。

### (2) 1年生CAN-DOリストの項目別正答率

領域		1年生到達目標 (CAN-DO LIST)		正答率	
理解する力	聞くこと	①	簡単な質問や指示等を聞いて、内容を理解することができる。	95.4	
		②	はっきりと話されれば、短い会話などを聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。	82.3	
		③	はっきりと話されれば、日常的な話題（学校行事、自分の好きなこと）について、概要を捉えることができる。	90.2	
	読むこと	①	日常生活の身近な単語や簡単な文を理解することができる。	72.0	
②		日常的な情報収集（広告やパンフレット、予定表等）について簡単な英語で書かれた文を読んで、必要な情報を読み取ることができる。	59.3		
③		まとまった内容（手紙や紹介文等）の英文を読んで、大まかな概要を読み取ることができる。	58.9		
④		登場人物の心情や意味・内容が表現されるように音読することができる。	—		
表現する力	話しこと	やり取り	①	自分の事や身近な話題について即興で簡単な問答することができる。	—
			②	事実や自分の考えを整理し、簡単な語句を用いて、問答することができる。	—
	発表	①	自分自身や身近な人々について、考えや気持ち、事実などを、相手意識をもって簡単な英語で伝えることができる。	—	
		②	関心のある事柄について、キーワードやメモを頼りに即興で話すことができる。	—	
	書くこと	①	英語の正しい語順や書き方の決まりに合わせて、正しく文を書くことができる。	41.7	
		②	自分の考えや気持ちなどを整理し、文と文のつながりに注意して、簡単な英文で書くことができる。（例）自分自身、家族・友達等の身近な人、お気に入りのものについてなど。	59.0	
③		自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりに注意して、簡単な英文で書くことができる。（例）自分自身、家族・友達等の身近な人、お気に入りのものについてなど。	49.9		
文字・語彙				68.0	

### (3) 結果概要

- まとまりのある英文を聞いて、話の概要や要点を理解することについては概ね良好です。（大問2、3）
- 20～30語で構成される英文については、その内容を理解できる傾向にあります。（大問5、10）
- 正しい語順で英文を書くことや場面に応じた英文を書くことに課題が見られます。（大問13、14）
- 100語前後のまとまった英文の内容理解に課題が見られます。ある程度の語数からなる英文に多く触れたり、制限時間内に読み取ったりする取組の充実が求められます。（大問8、9）

## 2 指導のポイント

(1) 必要な情報を聞き取るなど、聞くことの目的を明確にし、必然性のある場面を設定しましょう。

### ア 問題の概要

4 あなたは、ビル(Bill)の連絡先を書いたメモをあやまって汚してしまい、メールアドレス(e-mail address)が分からなくなりました。改めてメールアドレスを確認するためにビルに電話をかけているところです。ビルのメールアドレスを、解答欄にすべて小文字で書きなさい。

〈正答〉 wonderful (50.8%) 無回答 245

〈主な誤答例〉

※抽出回答 303 人中の綴り間違いに占める割合 (上位3つ)

- ・ wonde**o**ful → r を o と聞き違えた (9.4%)
  - ・ won**t**erful → d を t と聞き違えた (7%)
  - ・ wonder**f**ur → l を r と聞き違えた (5.4%)
- なぜ、このような間違い？

放送原稿

A: Hello, Bill. What is your e-mail address again, please?

B: Oh, my e-mail address? w-o-n-d-e-r-f-u-l@com.

A: OK...w-o-n... Sorry?

B: w-o-n-d-e-r-f-u-l@com.

A: Ah, I see! Wonderful!

B: That's right!

My school days in Japan are wonderful.

### イ 誤答分析

「w-o-n-d-e-r-f-u-l」とアルファベット1文字ずつ発音されるのを聞き取った際、以下の囲みのように子音を正確に聞き取ることができなかつたり、曖昧母音(「あ・い・う・え・お」のどの音にも似ているようで似ていない中間的な母音)の判断がつかなくなつたりしたため、正確に書くことができなかったものと推測されます。

r を o と聞き違えた	a:r	óu	(ア? オ?)
d を t と聞き違えた	tí:	dí:	(子音の違い)
l を r と聞き違えた	él	a:r	(エ? ア?)

本問題では、まとまった文脈の中で必要な情報を聞き取る力の他に、小学校での学びの状況(文字)についても見取ることができます。

### ウ 指導上の留意点

本問題に係る「聞くこと」の目標

小学校	中学校
イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、 <b>具体的な情報</b> を聞き取ることができるようにする。	ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、 <b>必要な情報</b> を聞き取ることができるようにする。

小学校外国語科の目標を受け、中学校では「日常的な話題」について、聞き手として目的に応じて知りたいことや欲しい情報などの「必要な情報」を聞き取る力を身に付けさせる必要があります。例えば、必要な情報をメモしながら聞き取るなど、**領域を統合させた活動を日常的に行うこと**により、聞く力と書く力をバランスよく鍛えることができます。また、活動中は生徒の状況を見取り、音声と文字が一致しているかを確認したり、正しい発音の仕方を指導したりすることが有効です。そのために、**授業者は小学校での文字の学習状況を十分に理解しておく必要があります。**

[小学校での文字の学び]

3、4年生「**文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかがわかるようにする**」(聞くこと)

5、6年生「**活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする**」(読むこと)

「**大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする**」(書くこと)

**授業展開例** (〇〇するために、必要な情報を聞き取る)

～ALTの出身地のホームページを閲覧するために、検索欄に入力すべき情報を聞き取る活動～

**4月 ALTの自己紹介の場面**

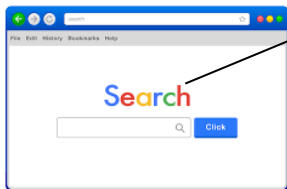
※未習表現等については、視覚教材やジェスチャー等を交えながら説明することが考えられる。



まとまった英文から必要な情報を聞き取る必然性

Hello everyone. I'm John. I'm from here. (写真1枚を提示)  
Can you guess where it is? I like my hometown. Now let's find a homepage of my hometown. You can see many pictures. Please input a key word on your tablet. OK?

I'm from London. London is a wonderful city. Do you know London? London is famous for a big museum and soccer team but my city has many other good places.



london



キーワードはロンドンかな・・・音を頼りにまずは入力してみよう！

londonのホームページにたどり着かない生徒がいた場合、以下のようなやり取りをしながら、文字の定着度合いを確認することも考えられる。



Show me your tablet.

rondon  
(lをrと誤っている)



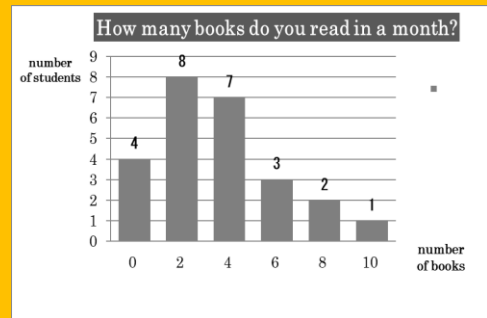
Oh, nice try but one mistake.  
First alphabet is "l". Not "r".  
Watch my mouth. (lの音の出し方を指導する)

(2) 言語活動を通して、絵やグラフなどの資料を含む様々な表現にたくさん触れさせましょう。

**ア 問題の概要**

7 アメリカからの留学生のジュディー (Judy) が、図書委員会の活動に取り組んでいます。

次のグラフは、クラスメートが1か月にどのくらい読書をするのかについてまとめたレポートの一部です。このグラフから読み取れることを正しく表している英文を、あとの1～4から1つ選び、その番号を書きなさい。



- 1 Judy's class has twenty-four students.
- 2 Five students don't read any books in a month.
- 3 Six students read three books in a month.
- 4 Three students read six books in a month.

## イ 誤答分析

- 1と解答…数を含む表現を理解することができていないか、グラフの読み取りを誤っていると考えられる。
- 2と解答…否定を表す表現を理解することができていないか、グラフの読み取りを誤っていると考えられる。
- 3と解答…number of の表現を理解することができていないか、グラフの読み取りを誤っていると考えられる。

## ウ 指導上の留意点

広告や絵、グラフなどの資料を含む様々な英文にたくさん触れさせるようにしましょう。その際「読むこと」の領域の他に、「話すこと（発表）」の領域で触れることも考えられます。例えば、自分の知っている語句や表現を用いて、絵や写真を描写する活動を重ねることが効果的です。なお、小学校外国語活動では「話すこと（発表）」の領域において、慣れ親しんだ語句や表現を用いて、絵や写真などを描写する活動を行っています。

## 授業展開例

### クラスの実態調査

ICTのアンケート機能（Microsoft Forms等）を活用し、学級のタイムリーな実情についてグラフを使っての説明を聞いたり、やり取りをしたりする活動

- ①教師から生徒のタブレットにアンケートを配信（読む必然性）

Today's survey

Do you like books?  
How many books do you read in a month?  
Please choose your answer below.

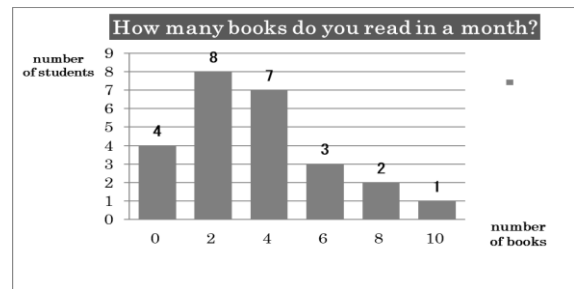
<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 4
<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 5
<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 6
<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> over 6



- ②即時集計の結果を大型画面に提示



英文から指示や必要な情報を読み取る。  
未習語がある場合でも、辞書を使ったり、友達や教師とやり取りしたりしながら粘り強く解決しようとする姿勢を支援しましょう。



- ③集まった学級データについて、教師がグラフの読み取りに必要な表現を織り交ぜながら説明したり、生徒とやり取りをしたりする。



In this class, eight students read two books in a month.

（棒グラフを指しながら）How about this one?

Six students read three books in a month.



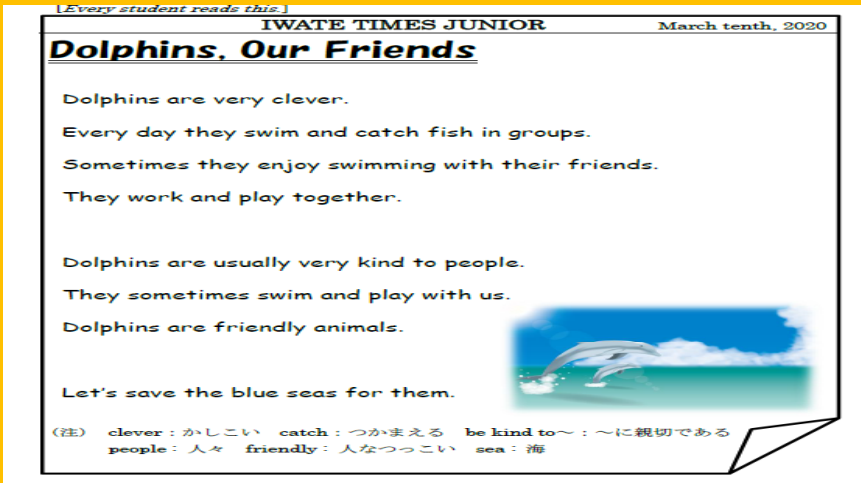
※このような説明ややり取りの後に、本調査問題を再度解いてみるのも効果的です。

(3) まとまった英文の中から、生徒が必要な情報に着目できるような指導を授業に取り入れましょう。

ア 問題の概要

9 英語の授業で、外国語指導助手のジョニー・ブラウン (Johnny Brown) 先生と生徒の間で以下のようなやり取りがなされています。A～Dには、ア～カのどれが当てはまりますか。その組み合わせとして最も適切なものを、あとの表の1～4の中から1つ選び、その番号を書きなさい。

Mr. Brown: Everyone, read this. It's interesting.  
 Student①: Oh, it's all English. That's very difficult.  
 Mr. Brown: This newspaper is for students. You can read it!



[A few minutes later] (数分後)

Mr. Brown: I have some questions. What is this newspaper about?  
 Student②: It's about dolphins.  
 Mr. Brown: OK. Do you like dolphins?  
 Student③: Of course! I love them.  
 Mr. Brown: Oh, I see. Do dolphins swim and catch birds in groups?  
 Student④: ( A ) They swim and catch fish.  
 Mr. Brown: That's right. Next, what do they do together?  
 Student⑤: ...Walk?  
 Mr. Brown: Walk? (歩く動作を見せながら) Do they walk in the sea?  
 Student⑤: Ah, no! ( B )  
 Mr. Brown: Good! Do people sometimes swim and play with dolphins?  
 Student⑥: Well...( C )  
 Mr. Brown: Why are dolphins friendly?  
 Student⑦: ( D )

- 1 (21%)
- 2 (14%)
- ③ (47%)
- 4 (10%)
- その他 (4%)
- 無回答 (1%)

選択肢	A	B	C	D
1	エ	ウ	イ	カ
2	イ	エ	オ	ア
3	イ	ウ	エ	ア
4	イ	オ	ウ	カ

ア Because they like people.  
 イ No, they don't.  
 ウ They work and play.  
 エ Yes, they do.  
 オ They save people.  
 カ Because they like their home.

イ 誤答分析

約5割の生徒は、新聞記事から必要な情報を読み取ることができています。一方で、誤答の割合が一番多かった選択肢1は、疑問文に対するYes/Noの違いによるものです。ブラウン先生の質問に対し、必要な情報を探ることができなかった、あるいは本文の内容を正しく読み取れていなかったものと考えられます。

## ウ 指導上の留意点

Yes/No と答えさせる発問のみならず、疑問詞を用いた発問等も用いながら、生徒が何度も英文に目を通し、必要な情報を読み取る力を高める必要があります。また、英文には答えがないことについて考えさせる問いを織り交ぜることも、深い読み取りにつながります。

### 指導展開例

#### やり取りの中で英文を読み取らせる工夫

今回出題された問題は、そのまま授業展開として活かすことができます。



※他にも、生徒の実態に応じて発問を考えることは、深い教材研究にもつながります。

(4) 意味のある文脈の中で文法事項を用いて繰り返し表現させ、正確に書けるようにしましょう。

#### ア 問題の概要

経年で比較するため昨年度と同様の内容で出題しているものです。

14 英語の授業で学校の先生について英語でヒントを作り、誰かを当てるクイズ大会を行います。次の表の(1)～(3)は、のり子さんの学校のある男性の先生に関する情報を示しています。これらの情報を用いて、彼について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

(1) 住んでいるところ	Kitakami	(2) 好きなスポーツ	swimming	(3) ペット (pet) の有 (○) 無 (×)	×
--------------	----------	-------------	----------	----------------------------	---

#### 経年比較 (%)

	(1)			(2)			(3)		
	正答	誤答	無回答	正答	誤答	無回答	正答	誤答	無回答
R 1	33.7	58.9	7.3	40.5	52.5	6.6	14.1	74.4	11.5
R 2	33.2	57.7	8.9	38.8	53.1	8.0	15.7	71.2	13.0

(1)

<正答>	He lives in Kitakami. (33.2%)
<誤答>	※抽出解答 305 人中の割合
○解答類型 1	与えられた情報に基づいて解答しているが、動詞の活用形に誤りがあるもの(4.3%) He live in Kitakami. (3単現 s の脱落)
○解答類型 2	与えられた情報に基づいて解答しているが、語や文法事項等に誤りがあるもの(18.3%) He live Kitakami. (前置詞 in の脱落) 等
○解答類型 3	上記以外の解答(32.4%) I live in Kitakami. 等
○無答	(8.9%)

(2)

<正答>	He likes swimming. (38.8%)
<誤答>	※抽出解答 305 人中の割合
○解答類型 1	与えられた情報に基づいて解答しているが、動詞の活用形に誤りがあるもの(10.8%) He like swimming. (3単現 s の脱落)
○解答類型 2	与えられた情報に基づいて解答しているが、語や文法事項等に誤りがあるもの(30.8%) He is like swimming. / He likes sports swimming. 等
○解答類型 3	上記以外の解答(11.8%) I like swimming. Do you like? 等
○無答	(6.6%)

(3)

<正答>	He doesn't have any pets. (14.1%)
<誤答>	※抽出解答 305 人中の割合
○解答類型 1	与えられた情報に基づいて解答しているが、一般動詞の否定形や動詞の活用形に誤りがあるもの(13.1%) He don't have any pets. / He doesn't has a pet. 等
○解答類型 2	与えられた情報に基づいて解答しているが、語や文法事項等に誤りがあるもの(41.6%) He doesn't have a pets. He doesn't have any pet. 等
○解答類型 3	上記以外の解答 (16.7%) He has a pet. I have no pets. He is not a pet. 等
○無答	(13.0%)

## イ 誤答分析

与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文や否定文を正確に書くことに課題が見られます。

また、正しく主語を選択できない他、語順や前置詞の欠落などの語法等に誤りがあり、基本的な語や文法事項等を理解していないことが考えられます。

## ウ 指導上の留意点

言語材料を正しく用いて、伝えたい内容が読み手に伝わるように正確に文を書くことができるように指導することが大切です。その際、特定の言語材料のみを用いて文を書かせるだけではなく、コミュニケーションの目的や場面、状況のある「書くこと」の言語活動において、様々な個別の知識を活用させて文を書かせることを授業の中に位置付けるようにしたいものです。また、生徒の誤りについて生徒自身に考えさせるなどの指導を繰り返すことを通して、学習内容の理解が深まり、実際のコミュニケーションにおいて活用できる程度の技能を身に付けることにつながることを指導者として意識することが重要です。

【参考】平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査報告書 p.60 より

具体的な指導としては、次のような活動が考えられる。

- ・憧れの人物や友達紹介など、3人称を扱った言語材料を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりして様々な場面で繰り返し使用する活動
- ・生徒同士で書いたものを互いに読み合い、誤りに気付き、修正を加える活動
- ・「ローマ出身です。」のように、日本語では省略される傾向にある主語が何であるかを考える活動
- ・「誰が？どうするの？どこに？」のような教師の発問を通して、英文を書く際に基本的な文や文構造を確認する活動

## 指導展開例 R1 から継続

### Small Talk 等の後に書く活動

Small Talk やインタビューをした後に、書く活動を行う。

※解答類型1に焦点を当て、3人称単数現在時制を正しく用いて書く力を高める。

相手の発話内容を、3人称単数現在時制を用いて書く。



Yoshie

② I like soccer.  
I often watch soccer games  
on TV, but I don't play it.

① Yoshie, what sport do you  
like?



#### ポイント1

意味のある文脈で、スパイラルに文法事項を扱う

#### ポイント2

繰り返し指導しながら正確性を高める

Yoshie likes soccer. She often watches soccer games on TV, but she doesn't play it.



目的・場面・状況をより明確にした活動の一例として、【参考資料2】平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査「授業アイデア例」pp.19-20も参考になります。ぜひ、授業に取り入れてみましょう。

#### 【その他の例】

モノログ形式の教科書本文を3単現を用いて retell した後、rewrite する活動 → ペアで英文をチェック

本手引きに掲載したアイデアは「例」に過ぎません。3年後のゴールを見据え、本調査問題を2・3年生でも活用したり、1年生で行った言語活動を目的や場面、状況を変えて2・3年生で再度行ったりするなど、1年生の学びを生かした授業を工夫してみましょう。

添付資料

【参考資料1】中1英語確認調査・県学習定着度状況調査【授業アイデア例】過年度版  
【参考資料2】平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査【授業アイデア例】英語抜粋版